

図書 紹介

リケジョ 理系女子的生き方のススメ

著者：美馬のゆり（公立はこだて未来大学）

発行：憺岩波書店／〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5／

電話 03-5210-4000（案内）／新書判／219頁／価格 840（税別）／2012年12月20日発行

本書は、著者が自らの経験を織り交ぜながら科学やリケジョ（レキジョの引っ掛け）人生の面白さを語っている。自分のやりたいことを見つけて、周囲を巻き込みながら楽しく生きる生き方は著者の生き方そのものである。

第1章 リケジョ的視点で生活する

第2章 リケジョ的視点で社会を観察する

第3章 仕事のしかた，リケジョの場合

第4章 「学び」の成果を使う，活かす

第5章 「リケジョ力」を未来に活かす

第6章 科学リテラシー

第7章 理系女子的生き方のススメ

第8章 未来のリケジョとリケジョを育てるみなさまに

小見出しを見ていくと、第1章は、家事をするのは誰？／家事は学ぶもの？／すべては「何か変？」「なぜ？」「どうして？」からはじまる！／作られたイメージのカリスマ主婦／料理の理系的見方／料理を「科学」の視点でとらえると／調理がうまくなるとは／調理の上手下手は段取り力で決まる／理系的発想が生活をおもしろくするなど「生活すること」についてである。

第2章は、トイレの表示の何か変／紅一点／「なぜ，どうして」と考えよう！—ジェンダーの視点から／世界の中での日本の位置／核家族化，そして少子化／リスクマネジメントの視点で生き方を考える／世界の15歳の意識の違いのなぜなど「リケジョ的視点での社会の観察」、第3章は、どんな生き方がしたいのか／社会に出る前にできること／リスクヘッジを可能にするもの／自分の傾向を知る／仕事，そして仕事場に何を望むか／キャリア選択における社会的影響／平等と公平の違いなど「仕事をする事」について、第4章は、幼児のころの好奇心／知的好奇心を引き出す／大学をゼロからつくる経験／小学生と若手科学者のコミュニケーション／政策にかかわる審議会というところ／科学と社会

をつなげる人・仕事など「人が学ぶということ」についてである。

第5章は、20世紀が残した問題／先端科学技術の問題／生殖に関わる医療／『科学技術白書』から見える日本の科学技術／中高生の科学技術に関する意識／土地に根差した考え方／何か変、なぜ、どうしようなど「リケジョ力を活かしていくこと」について、第6章は、科学リテラシーとは／個人にとってのメリット／科学館や博物館の役割／おいしく食べることの科学／遺伝学—ひねりをきかせた技術／エジンバラ国際科学フェスティバル／このような時期に理系に進むということなど「科学と社会を構築する科学コミュニケーションについて」である。

第7章は、遊び心と科学する心／鳥の目で見ると「それ、変えてみよう！」というのがリケジョ・マインド／リケジョができあがるまで／幸か不幸か女子高校時代／専業主婦時代に突入／外の世界に出ることで見えるもの／科学する心、未来を創る力／やっぱり料理とおしゃれが好きなど「科学する心と未来について」、第8章は、幅広い層の読者のみなさまに／2冊の絵本の示すこと／リケジョの生き方をするために、リケジョ的人間を育てるためになど「高校生などの読者ではなくその成長を支援する大人のため」である。

本書は、まずは料理の話から始まり、料理が化学反応だと納得。リケジョの生き方の秘訣は、新しいものに常にアンテナを張っておくことを薦めている。それには「アイデア・ビジョン・インパクト」の3つが必要という。絵本の話では、読む年齢、経験とともにその内容の受け取り方、解釈は変化するなど興味深い内容である。また、社会の変革に関わる部分では、男性優位の社会の中で、人間同士、男女の区別なく生きて行こうとする時に男性の立場では既得権益とか、男尊女卑という言葉が頭に浮かんできて悩ましい。

本書は、本誌の「図書紹介」欄にと通勤の行き帰りに手軽に読める本を探し求めて、眼にとまったものである。男が読んでもいいのかなあーと躊躇しながら買い求めたが、一気に読んでしまった。どのページを開いても新しいことや興味深いこと、科学が生活に深く関わっていることに気づいた。

本書の対象は、理系を志す10代の女子とその親たちのようだが、まずは会員諸氏の子息に薦めてほしいし、また高校や大学の教員にも是非読んでほしい。リケジョの将来はまだまだ厳しいと思われるが、本書を通じてひとりでも多くのリケジョが増えることを期待してやまない。(学会事務局)